

研究主題

地域とのつながりの中で、よりよく生きようとする子どもの育成 ～家庭、地域と共につくる道徳教育を目指して～



きらりん



ふわりん



おもいやりん

親切、思いやり
キャラクター

福島市立飯野小学校（代表）校長 佐藤 育男

I 研究の構想

1 主題設定の理由

(1) 児童の実態より

① 教師のアンケートより

本校の児童は、友達と仲良く関わり、協力したり、助け合ったりすることができる。一方で、教師アンケートからは、自分に自信がなく、自己表出を苦手とする児童や、自分と考えの違う友達を受け入れることができない児童の実態があることがうかがえた。

② 令和4年度全国学力・学習状況調査児童質問紙より

令和4年度全国学力・学習状況調査児童質問紙「自分にはよいところがあると思いますか」という項目では、本校は30.8%と、全国や県の平均を大きく下回っており、自他のよさに気付くことや認め合うことが不十分であり、自己肯定感が低い実態があることがわかった。

| | |
|-------|-------|
| 全国 | 39.4% |
| 県 | 38.3% |
| 県北 | 37.7% |
| 飯野小学校 | 30.8% |

表1 令和4年度全国学力・学習状況調査児童質問紙

「自分にはよいところがあると思いますか」

こうした児童の実態を基に、多様な他者とのつながり、互いを認め合いながら、共によりよく生きようとする子どもを育てていきたいと考えた。

(2) 地域の特性を生かして

飯野町は三世帯同居世帯が多く、子どもたちは地域の様々な世代の人々との関わりが深い。また、飯野町には、古くから伝わる行事

やお祭りなどが残っている。学校教育活動でも、総合的な学習の時間で、飯野の人や自然・文化や先人の生き方から学習テーマを設定し、充実した体験活動を取り入れた「いいの地元学」を推進している。

このように、地元学で体験的な学習が多く行われているが、体験的な関わりのみになり、自己を振り返ったり、他者を認めたりする学びの深まりまでには至っていない。そこで、他者を認めるために、まず「自己を見つめる」ことを大切にしていこう必要があると考えた。

友達や保護者、地域の方々や地域とのつながりの中で自己を見つめ、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養いたいと考え、本主題を設定した。

2 目指す子どもの姿について

他者とのつながり認め合い、自己をじっくりと見つめることを通して、よりよく生きるための一歩を踏み出そうとする子ども

〈道徳教育の合言葉〉

つながり 見つめ 一步踏み出す 飯野っ子

3 令和5年度の重点内容項目について

令和5年度は、道徳教育の重点内容項目を、「親切、思いやり」の一つとし、焦点を絞って道徳教育を推進することにした。

4 研究仮説

子どもを取り巻く友達・家庭・地域とのつながりを大切にし、多様な思いや考えに触れながら、物事を多面的・多角的に考えることを通して、自己をじっくりと見つめ直すことを積み重ねていけば、他者との認め合いを基盤に、自分のよさや課題を自覚しながら、

よりよく生きるための一歩を踏み出そうとする子どもを育むことができるであろう。

5 研究内容について

道徳教育は、学校で行われる全ての教育活動に関わるものである。道徳性を養うことを目指すうえで、その中核的な役割を果たすのが道徳科の授業である。道徳科の指導において、各教科等で行われる道徳教育を補ったり、それを深めたり、相互の関連を考えて発展させ、統合させたりすることで、学校における道徳教育を充実させる。

令和5年度は、道徳科を中核に据え、生活科、総合的な学習の時間の授業を中心に以下の内容で研究を行う。

(1) 道徳科の授業づくりについて

【手立て1】 多面的・多角的に考える

- 発問を工夫したり意図的指名を行ったりすることで、多様な思いや考えを引き出し、児童一人一人の価値観を広げたり深めたりすることができるようにする。
- ・ 児童の考えをゆさぶる発問を用意する。
- ・ 児童が具体的、実践的に考えられるように役割演技や動作化を取り入れる。
- ・ 「みんなの心のものさし」を活用することで、思考を可視化することも必要に応じて取り入れる。
- ・ 保護者参加型の授業を構想する。その中で、参加している保護者の考えも引き出すことで、児童が多様な考えに触れることができるようにする。

【手立て2】 自己を見つめ直す

- 「書く活動」を取り入れ、一人一人が「できた経験」や「できなかった経験」等を具体的に振り返ることができるようにする。また、できた（できなかった）理由やその時の気持ちも引き出すことで、実感をもってより深く見つめられるようにする。さらに、見つめたよさを友達や家族と共有していく。
- ・ 児童がじっくりと自己を見つめられるよ

うに、振り返りを15分間程度確保する。

- ・ 自己の考えを深められるように、「自分の心のものさし」を活用することをきっかけとする。

【手立て3】 家庭・地域とつながる

- 「家庭・地域とつながる」場を設けることで、多くの児童がつながることのよさを感じながら、学びを深めることができるようにする。
- ・ 保護者参加型の授業を実施することで、学校と家庭で価値観を共有する。
- ・ 保護者や地域人材等、ゲストティーチャーを積極的に活用し、共に授業をつくる。

(2) 研究全体について

【視点1】 道徳教育の組織的取組について

〈全体計画、別葉の充実を目指した作成上の工夫点、配慮点〉

- 校長の方針の下、教職員や保護者の願いを実現できるよう、道徳教育の重点内容項目を「親切、思いやり」とし、全体計画を作成する。 **資料1**
- 別葉は、重点内容項目の「親切、思いやり」に焦点化を図り、各教科及び家庭・地域との連携等に関連付けて捉えられるようにする。 **資料2**

〈全体計画、別葉の活用上の工夫点・配慮点〉

- 別葉の活用
振り返りを加筆できる欄を設け、週案に綴じる。学級・学年で確認・追加・修正することで、様々な場面で重点内容項目を意識して指導できるようにする。 **資料2**
- 道徳教育推進教師を中心とした組織的取組
学校教育目標や子どもの実態から目指す子どもの姿を設定し、全職員で共有する。また、道徳教育推進教師が別葉作成・改善の中心となり、全教職員に情報提供する。
- 「全校・学級道徳コーナー」の運営
学年や学級に関係なく、全校生が友達の「親切、思いやり」につながる姿を共有できるように、道徳コーナーを全校生が目にする

る昇降口付近に設けた。地域の方や保護者にも参加を呼びかけ、家庭や地域も含めた取組とする。また、学級にも道德コーナーを設けた。

【視点2】 自己を見つめ、深い学びを実現する道德科授業の工夫

上掲(5)(1)道德科の授業づくりについてのとおり

【視点3】 一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

- 「飯野っ子心のノート」を発達段階に応じて作成・活用し、授業後は担任や保護者が、一人一人の考えを受け止め、励ます言葉掛けをしたり、コメントを書き込んだりする。
- 年間を通して「飯野っ子心のノート」への記述を累積することで、児童の内面的な変容を長期的に見取る。

【視点4】 「ふくしま道德教育資料集」等の活用について

- 年間指導計画に、「ふくしま道德教育資料集」を教材として扱う時間を全学年で位置付け、本校の重点内容項目に関わる教材を積極的に活用できるようにする。
- 「ふくしま道德教育資料集」と合わせて、身近な人の体験談を聞くことを大切にする。郷土である飯野町や、家族に対する思いを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 授業の中で震災当時のことについて保護者と共に考えたり、話し合ったりする場を設けることで、学びを家庭にも広げることができるようにする。

【視点5】 家庭・地域との連携を生かした取組について

- 道德教育の様子を学校だよりや学年だより、ホームページに掲載し、家庭や地域へ発信する。
- 保護者参加の授業を複数回実施したり、道德の授業後に「飯野っ子心のノート」を家庭に持ち帰らせたりすることで、家庭で

も道德科の内容を一緒に考えられるようにする。

- 道德教育講演会を年に2回開催し、保護者にも参加を呼びかけ、子どもと一緒に聞くことができるようにする。

6 研究の進め方

(1) 教育活動全体を通して

- 「研究内容」に示した内容について、学校全体として、年間を通して取り組む。

(2) 道德科の授業について

- 全体授業
 - ・ 年間で学年ごとに授業を公開し、講師を招聘して指導を仰ぐ。
 - ・ 授業実践部を中心に事前研究、模擬授業を行う。
 - ・ 全員が授業を参観し、事後研究会に参加する。
 - ・ 授業参観者は、3つの手立てについて付箋に成果や課題を書き込む。
 - ・ 事後研究会では、3つの手立てについてKJ法によるグループ協議を行う。
 - ・ レシピシートを活用して気軽に事前検討を行ったり、互見授業を実施したりする。

(3) 各種研修会、書籍等による研修

- ・ 先進校を視察し、伝達講習をする。
- ・ 文献研究を進め、理論を構築する。

II 研究の実際

(1) レシピシートを活用した授業づくり

「令和5年度【県北版】学校教育指導の重点 幸せを紡ぐ県北教育」には、豊かな心を育むために、心に響く道德教育の推進として「自己を見つめる」授業づくりが挙げられている。そこで、本時の「振り返り」の姿をスタートとし、本時における子どもの姿を明確に描き、発問を精選するために「レシピシートを活用した授業づくり」を行い、学習指導案は検討後に作成することとした。 **資料3**

(2) 模擬授業を踏まえた授業づくり

実施した12回の研究授業では、事前に模擬授業を行い、検討を重ねてきた。

① つながる授業について

模擬授業では、教師が話している時間が長くなったり、教師と児童の1対1のやり取りが多くなったりすることが課題であった。そこで、どのようにすると児童自らが思いや考えを表出し、友達や保護者とつながることができるのか、教師はどのような働きかけをすればよいのかについて



写真1 模擬授業の様子

て検討を重ねた。

② 教材の提示について

教材文の内容理解がスムーズにできるよう、内容を整理してから範読を行うことや、事前に教材文を読んでおくこと、ペープサート等を取り入れることなど、児童の発達段階や実態に適した教材提示の仕方について検討した。

③ 学習テーマについて

児童が学習テーマを自分事として考えることができるようにするために、どのような言葉やタイミングで提示したらよいのかについて検討を重ねた。アンケート結果を提示し、問題意識や必要感を高めたりすることや、本時の道徳的価値に関する日常の写真を提示し、児童が具体的な場面を想起しやすくすること等、児童の発達段階や実態を考慮した。

④ 教師のコーディネートについて

児童が多面的・多角的に考えられるよう、必要に応じて「みんなの心のものさし」を活用して、児童の考えの可視化を図ってきた。さらに、ねらいとする道徳的価値に対する考えを深めるためには、どのような順序で指名したり、どのようなゆさぶりの発問を投げかけたりすればよいのかについて検討した。

Ⅲ 授業の実践及び考察

(1) 第1学年の実践について

資料4

主題名：親切の心地よさ

教材名：はしの上のおおかみ（わたしたちの道徳1・2年生／文部科学省）

本時のねらい：優しくくまと出会った場面の

役割演技を通して親切にされたときの心地よさに気づき、身近な人に対して思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。

① 「多面的・多角的に考える」について

保護者参加の授業を計画し、全体での役割演技に加えて、小グループで保護者と役割演技を行うことを通して、本時のねらいに迫る。中心発問を「くまに抱き上げられ、反対側を下ろしてもらったおおかみは、どんなことを考えていたのか」とし、役割演技を通して、じっくりと考えることで、親切にされる心地よさを感じることができるようにした。

【役割演技後】

- C1 くまさんはやさしいね。
C2 でもさ、おおかみはどうして意地悪をしたくなったのかな。
T どうして心に手を当てたのかな。
C3 心でありがとって思ったから。
C1 優しくしてもらってうれしかったから、気持ちが温かくなって心に手を当てた。
T どうしてくまさんは優しいなって思ったのかな。
C1 (沈黙)
T (全体へ) どうして優しいなって思ったのかな。
C5 持ち上げてくれて優しい。
C6 くまさんは怒ったりしないで、優しく教えてくれたから。
T C1さんもそういう気持ちでありがとと言ったのかな。

○ 役割演技を取り入れることで、児童が自分事としておおかみの心の中をじっくりと考えることができた。全体での役割演技に加えて、小グループで役割演技を行い、全員がくま役の保護者に抱きかかえられることで、ほとんどの児童が親切にされる心地よさを感じ取ることができた。



写真2 親切にされるよさを実感する姿

- 教師が「どうしてそう思ったのか」と理由を尋ねたり、見ている児童にも「どう思うか」尋ねたりしたことで、役割演技に参加した児童だけでなく、見ている児童も、考えを深めることができた。
- 授業に参加している友達のお父さんやお母さんにも振り返りカードを見せに行くなど、友達や保護者と、自らつながろうとする姿が見られるようになった。

②「自己を見つめ直す」について

「自分の心のものさし」を使って振り返ることを通して、自己をじっくりと見つめられるようにする。また、親切にできた理由やその時の気持ちについて引き出すことで、周りの人に親切にすることの大切さについて実感をもって考えることができるようにする。さらに、幼稚園児や幼稚園の先生からの感謝のメッセージを聞くことで、親切にすることの心地よさを感じながら、実践意欲を高めたとい考えた。

- T 今度は、自分のことを考えてみよう。お面を外して、机の上に置いてください。これまでの自分は、おおかみやクマのように、周りの人にやさしくすることができていたかな。
- C 1 できていた。(心のものさしを記入しながらのつぶやき)
- C 2 最初はできていなかったけれど、最後はできた。(心のものさしを記入しながらのつぶやき)
- C 3 できていなかった。(心のものさしを記入しながらのつぶやき)
- T 6月と10月の年長さんとの交流会はどうだったかな。これは、ドッジボール中の写真かな。(写真提示) これは最後の終わりの会の写真。(写真提示)
- T みんなで頑張っていた学習発表会の時はどうだったかな。これは、練習をしている時。(写真提示) これは、お片付けしている時。(写真提示)

- C (ワークシートに記入)
- C 4 けがをしている友達に「大丈夫」と声を掛けた。
- T そんなC 4さんのことをC 5さんはどう思う。
- C 5 声を掛けてもらってうれしい。
- C 6 給食当番の時、C 7ちゃんが何をやるのかわからなかったから教えてあげました。
- T どうして教えてあげたの。
- C 6 わからなくて、困っていたから。
- T 迷っている友達に教えてくれたC 6さんのことをどう思う。
- C 7 やさしい。

- 言葉での表現が難しい児童には、教師が言語化し、自己を振り返ることにつなげた。回数を積み重ねることで、1年生の児童も自己を見つめることができるようになった。



写真3 真剣な表情でこれまでの自分を振り返る姿

- 保護者に見守られながら、温かい雰囲気の中で授業を行ってきたことで、児童は素直な考えを意欲的に表出することができた。さらに、友達の発表の際には顔を見て聞き、それにつなげて発表したり、振り返り際には、自己をじっくりと見つめて振り返りを書いたりすることができた。

【児童の振り返りより】

- ・ けがをしているともだちに、だいじょうぶってこえをかけた。
- ・ 年長さんが、ならぶばしょがわからなそうだったのでおしえてあげた。そのあとのしそうにあそんでいて、うれしかった。

③「家庭・地域とつながる」について

役割演技や振り返りの場面で、保護者や幼稚園児・幼稚園の先生方とつながる機会を設定した。さらに、参加保護者数が毎回10名以上いる本学級の強みを生かし、10名の保護者に積極的に子どもたちに関わっていただ

くことで、子どもたちだけでは気付けない考えや思いに触れながら、考えを深められるようにした。

- 保護者の授業参加を複数回行ってきたことで、児童も保護者も積極的に役割演技に取り組んだ。児童がおおかみの気持ちをうまく言えない時には、役割演技を2回行ったり、保護者が「どう思ったの」と児童に聞いたりするなど、保護者が個々の児童に柔軟に対応することで、教師が想定する以上に多様な考えを引き出すことができた。



写真4 保護者との役割演技で自分の思いを語る姿

- 2学期の道徳授業参加の依頼(計4回分)を早めに保護者に伝えたことで、毎回10名以上の保護者の参加につながった。自分の子どものみならず、学級の児童全体に目を向け、多くの児童と関わっていただいた。
- 幼稚園の先生や園児からの感謝のメッセージを嬉しそうに聞く姿から、親切にすることの心地よさを感じることができ、実践意欲を高めることにつながったと考える。



写真5 幼稚園の先生とつながる姿



写真6 園児と映像でつながる姿

【保護者の感想より】

くま役として前に立ちましたが、子どもたちが言った言葉に対して、優しい気持ちを言葉で伝える難しさを感じました。やはり言葉だけでなく、日頃から行動で表していくことで、子どもに優しさや思いやりの気持ちは伝わると感じたので、今後は今まで以上に行動や態度で示していきたいと思えます。

(2) 第6学年の実践について **資料5**
 主題名：かけがえのない家族 教材名：私の誕生日(ふくしま道徳教育資料集 第II集)

本時のねらい:親の思いについて考えることを通して、家族が深い愛情をもって自分を大切に育てていることに気づき、かけがえのない家族を大切にしていこうとする心情を育てる。

①「多面的・多角的に考える」について

主人公に対する家族の思いを保護者と一緒に考えた後、実際に保護者の我が子に対する思いを聞くことで、家族の深い愛情や願いを感じることができるようにした。また、主人公に対する「家族の思い」と主人公自身の「家族への思い」、そして児童の自分に対する「家族の思い」と児童自身の「家族への思い」を対比して板書することで、それぞれの立場から家族とはどんな存在なのかについて考えることができるようにした。

- T うつむいていた春香が、叔母の話を聞いて顔を上げると、父と母は春香の方を見て、ほほえんでいました。父と母は、どんな思いでほほえんでいたのかな。
- C 1 春香が生まれた大切な日だから。
- C 2 小さいころ病気をしたけれど、今元気であるから嬉しい。
- C 3 家族にとっては最高に嬉しい日。
- T 家族にとって春香はどんな存在なのだろう？
- C 4 大事な存在。かけがえのない存在。

- 保護者が話し合いに参加し、思いを交流することで、児童は自分の考えをより広げたり深めたりすることができた。保護者からの問いかけに、じっくりと考えながら発言する児童の姿も見られた。



写真7 児童と保護者で考えを交流する姿

- 主人公春香に対する「家族の思い」と春香自身の「家族への思い」、そして自分たちに対する「家族の思い」と児童自身の「家族への思い」を対比しながら板書することで、それぞれの立場から家族とはどんな

な存在なのかについて、思考をつながげながら考えを深めることができた。児童の発言に対して、「それはどういうことかな」「みんなにもそういう思いをしたことがあるかな」「どんな時にそう思う」といった問い返しや揺さぶる発問を効果的に行うことで、さらに考えを広げたり深めたりすることができたと考える。

②「自己を見つめ直す」について

参加している保護者から震災時のことや生まれたときの喜びなどのエピソードを直接聞いたり、事前に親から子への手紙を書いてもらい、授業の最後にその手紙を読んでいたたりすることで、震災時の家族の大変さや自分への無償の愛、そして家族に支えられていることに気づき、家族への思いをじっくりと見つめ、かけがえのない存在である家族について考えを深めることができた。

- 授業に参加した保護者から直接思いを聞くことで、児童一人一人が自分の家族と重ね合わせて、自分事として家族について考えることができた。保護者の話を聞く児童のまなざしが真剣で、直接児童に伝えたからこそ児童の心に響いたと実感した。
- 自己を見つめ直す時間を十分に確保したことで、家族に対する思いをじっくりと考えることができた。「自分にとって家族とはどんな存在なのか」、さらに「どうしてそう思うのか」ということを具体的に振り返る発問を投げかけたことで、自分の生活を見つめ、家族に対する感謝の思いについて素直に話したり、涙を浮かべながら聞いたりする児童の姿が見られた。



写真8 家族からの手紙を読み、愛情を実感する姿
【児童の振り返りと学習後の「飯野っ子心のノート」による家族とのやり取り】

【児童の振り返り】

自分にとって家族とは、信頼できて、いつでも背中を押して、助けてくれる存在。理由は、負けてしまったときに、お母さんはいつも励まして背中を押してくれるから。

【家族のコメント】

2年生からドッジボールを始めて、いつも真面目にひたむきに頑張る姿をそばで見してきました。「信頼できて、助けてくれる存在」と思っていたことを知り嬉しかったです。お父さんもお母さんも、あなたが私たちの子どもに生まれてきてくれて、健やかに成長してくれて、いろいろな面で活躍してくれて、とても誇らしいです。これから先、不安なことや困難なこと、「壁」にぶち当たる時が来ると思います。その時は、いつでも遠慮なく頼ってほしいです。(母)

③「家庭・地域とつながる」について

2名の保護者の授業参加を計画し、児童と保護者が互いの考えを交流したり、子への思いを直接伝えてもらったりすることで、家族の深い愛情や願いを実感できるようにした。また、家族に対する児童の思いを聞いた感想を保護者に話してもらうことで、児童が自己の学びを感じ取ることができるようにした。授業後には、自分の思いを書き込んだ「飯野っ子心のノート」を持ち帰り、家族からメッセージをもらうことで、家族に授業の内容や自分の思いを伝え、家庭と学校で道德教育の内容を共有し、家庭と学校がつながるようにした。

【保護者の感想より】

子どもたちが、感じたことを自分の言葉で表現して発表する姿を見ることができました。それぞれに、受け取り方、考え方の違いがあって、ペアで話し合う事で、その事にも気付くことができた授業だったなと感じました。親や他の保護者の話を、子どもたちも聞くことができ、なかなかこうした交流の場は少ないので、とてもよい機会でした。

子どもたちの思いは、すごいなと思うことばかりでした。思春期の真っ只中で、親子同士でも本当の思いを伝える機会がなかったので、よい経験となりました。涙した子を見

たり、話を聞いたりして、心の中ではお互いに感謝しているのだなと感じました。

- 家族に授業のことや自分の思いを伝えることで、家庭と学校で道徳教育の内容を共有し、家庭と学校がつながることができた。
- 参加した保護者に授業の感想を伝えてもらうことで、児童が自己の学びを振り返る機会となった。

IV 研究の成果と課題

①「多面的・多角的に考える」について

道徳科の授業では、あらかじめ児童の考えを想定し、多様な考えに対応する複数のゆさぶりの発問を用意した。また、意図的指名をすることで、多様な考えを引き出し、一人一人が考えを深めることにつながった。さらに、保護者や地域の方の思いや考えを聞くことで、児童だけでは気付かない思いや考えに触れ、児童は自らの考えや価値観を広げたり深めたりすることができた。



写真9 みんなの心のよさで意図的に指名する様子

②「自己を見つめ直す」について

道徳科の授業では、振り返りの時間を15分程度確保し、できた（できなかった）理由やその時の気持ちも引き出すことで、児童が自己をじっくりと見つめる姿が見られた。また、振り返りカードに友達が書いたエピソードを自分のことのように受け止めて一緒に喜ぶ姿や、授業に参加している友達のお父さんやお母さんにも、振り返りカードを見せに行く姿が見られ、認められる心地よさも感じることができた。



写真10 友達の思いを自分事として受け止める姿

③「家庭・地域とつながる」について

- (1) 各学年で家庭・地域とつながる授業を複数回行ってきた。保護者や地域の方々には、

多くの児童に対し、我が子のように積極的に関わっていただいた。児童は、進んで保護者や地域の方と関わり、他者とつながるこ



写真11 地域の方の体験談を聞く姿

とのよさを感じながら、学びを深めることができた。学校が中心となり、家庭や地域に発信していくことが、それぞれの学びを広げたり、深めたりすることにつながった。

- (2) 参加した保護者に授業の感想を伝えてもらうことで、児童が自己の学びを振り返る機会となった。全国学力・学習状況調査の質問紙で「自分にはよいところがある」に対して肯定的ではない回答の児童が少なくないため、今後も、保護者や地域の方に認められる機会を増やし、自他のよさに気付くことができるようにしていきたい。

④ 全体を通して

(1)「重点内容項目」とつなぐ

道徳教育の重点内容項目「親切、思いやり」に焦点化を図った別葉を作成したことで、年間を通して見直しをもち、共通理解の下、計画的に授業をしたり、意識して指導したりすることができた。

(2)「全校道徳コーナー」でつなぐ 資料6

星カードを嬉しそうに読む児童や、放送での紹介を心待ちにする児童もおり、多くの児童が「親切、思いやり」を意識して生活することができた。学校行事の際に保護者や地域の方にも書いていただくことで、家庭や地域と児童のよさを共有することができた。学級のコーナーにも、多くの星が積み重ねられた。

(3)「道徳教育講演会」でつなぐ 資料7

道徳教育講演会では、児童がポスターや講演題を作成する等の事前準備を行ったり、あらかじめ講演の内容や講師について調べたりすることで、講演会当日は心のノートにメモを取りながら熱心に聞くことができた。講演後には自ら質問する児童もおり、児童の心に

響く講演会にすることができたと感じている。また、児童と保護者が価値観を共有することができ、家庭と学校が連携して児童の道徳性を養うことにつながった。

日出子さんは、一歩をふみ出すのは、いいと言っていたのでわたしも、できないじゃなくて、一歩をふみ出すことを心がけてがんばりたいと思います。

〈第1回 道徳教育講演会
児童の感想〉



図1 児童作成の
ポスター

【講演会に参加した保護者の感想より】

震災の話は何度聞いても切なくなります。最後の最後まで人を助けて亡くなった高校生の話は、本当に切なく、自分の子だったらと思うと、お母さんの気持ちも何とも言えない気持ちでした。自分は家族のことを守れるだろうか。・・・もう12年と数か月が経ち、まだまだ復興は終わっていないということに、自分はこれから何ができるだろうと講演を聞いて、考えなくてはならないと強く思いました。

(4)「児童会」がつなぐ

代表委員会では、「飯野小学校を今よりも親切・思いやりいっぱいの学校にしたい」という思いから、全校



写真 12 全校生へ「親切、思いやり」キャラクター発表

生へ募集を呼びかけ、親切、思いやりのキャラクターを作成した。6学年児童がキャラクターの仕上げやポスター製作を担当することで、自分たちで制作したキャラクターに愛着や親しみをもち、大切にしようとする意識をもつことができた。完成したキャラクターは、職員室前の道徳コーナーに掲示し、毎日児童が目にするようにした。また、各学級の道徳コーナーに掲示したり、学校行事等でも活用をしたりして、児童がキャラクターに親しみをもち、より親切、思いやりを意識して生活することにつながった。

V これまでの研究を振り返って

(1) つながる授業を目指して見えた姿

「家庭、地域と共につくる道徳教育」を目指して、「つながる」ことを大切に、研究を進めてきた。子どもたちが、多くの人と関わる中で、「つながる」ことよきや楽しさを感じながら、学習する様子が見られた。私たちは、そうしたつながりを通して、子どもたちの表情が変化したり、考えが広がったりする様子を間近で見ることができた。資料8

① 友達とのつながり

道徳教育の研究を通して、道徳科のみならず全教育活動で意識的に取り組んできたことが、子ども同士がつながることである。ペアやグループで話し合う場を設定したり、考えを共有させるための働きかけを意識的にすることで、友達の考えに興味をもって聞いたり、共感したりする様子が見られた。友達とつながり、共に学ぶことを通して、友達がいることよきや、自分とは違う様々な考えがあることよきに気付くことができた。

② 家庭とのつながり

2学期からは、どの学級でも保護者からの手紙やアンケートに加えて、保護者が子どもたちと一緒に考えたり、話し合ったりする授業への参加を積極的に計画し、実施してきた。初めは恥ずかしがっていた子どもたちも、回数を重ねる度に、一緒に考えることに慣れ、積極的に関わる姿が見られるようになった。保護者の参加により、子どもたちだけでは気付かなかった思いや考えに触れ、考えを広げたり、深めたりすることができた。保護者の温かい言葉に、目を輝かせて聞き入る姿や、自分の考えを生き生きと保護者に伝える姿は、保護者の参加があつてこその一歩踏み出す姿であると感じた。児童の豊かな心を育てるために、家庭と学校が連携することよきさを改めて実感することができた。

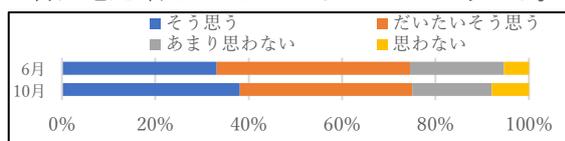
③ 地域とのつながり

各学年の生活科や総合的な学習の時間に、

地域の方にゲストティーチャーとして来校していただき、複数回関わりながら学習を進めてきた。令和5年度は、これまでの子どもたちと地域のつながりをさらに広げたため、自分が住んでいる飯野町のよさに気付きながら、より積極的に地域の方と関わる姿が見られた。子どもたちのよりよい成長のために、地域との協力が欠かせないと強く感じた。

(2) 道徳教育アンケートより

6月と10月に2回アンケートを実施した。「自分にはよいところがあると思いますか」という設問に対し、「そう思う」と回答した児童が大きく増加した。道徳コーナーをきっかけに、友達や上級生、下級生、教師、保護者や地域の方に自分の他者に対する思いやりの心をほめてもらうことで、自分のよさに改めて気付くことができた児童もあり、自己肯定感を育むことにつながったと考える。



グラフ1 道徳教育アンケート
「自分にはよいところがある」(2～6年)

(3) 子どもの姿より

2年生の帰りの会「今日のキラキラさん教えてコーナー」を通し、子どもたちの友達のよさを見つける目が、着実に育っている。学級みんなに「いいね!」と、ほめられた児童は、友達に認められる心地よさを感じることができた。毎日続けるうちに、子どもたちの姿が変わり、教室全員の子どもたちの心が、発表する子どもに向けられるようになった。発表する子どもも、学級の中で大切にされている自分を自覚しているようであった。教室の思いやりの星を一つ、また一つ増やすことができた。



写真13 心に向けて
友達の話を聞く
姿

令和6年6月のことである。3年生のA児は、修学旅行へ出かけている6年生へ思いを馳せ、1組、2組それぞれに手紙を書いた。

帰校後、黒板に貼られた手紙を読んだ6年生からは、笑顔があふれた。他者を思いやることのよさを実感しているA児は、6年生に向けて、その一歩を力強く踏み出したと考える。

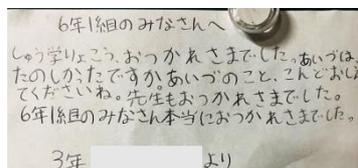


写真14 A児が
書いた手紙

(4) 互いに高め合える教員同士のつながりを目指して

本研究を通して、教員同士のつながりをより強いものにすることができた。レシピシートによる事前研究や模擬授業を通して、授業者のみならず多くの教員が授業について真剣に考え、授業をよりよいものにしていくことができた。職員室で声を掛けると自然と人が集まり、授業について悩んでいることを気軽に相談し合える関係は、何よりも心強いつながりとなったと感じる。今後も、教員同士がつながり、共に考えることを通して、互いを高め合える研究を進めていきたい。

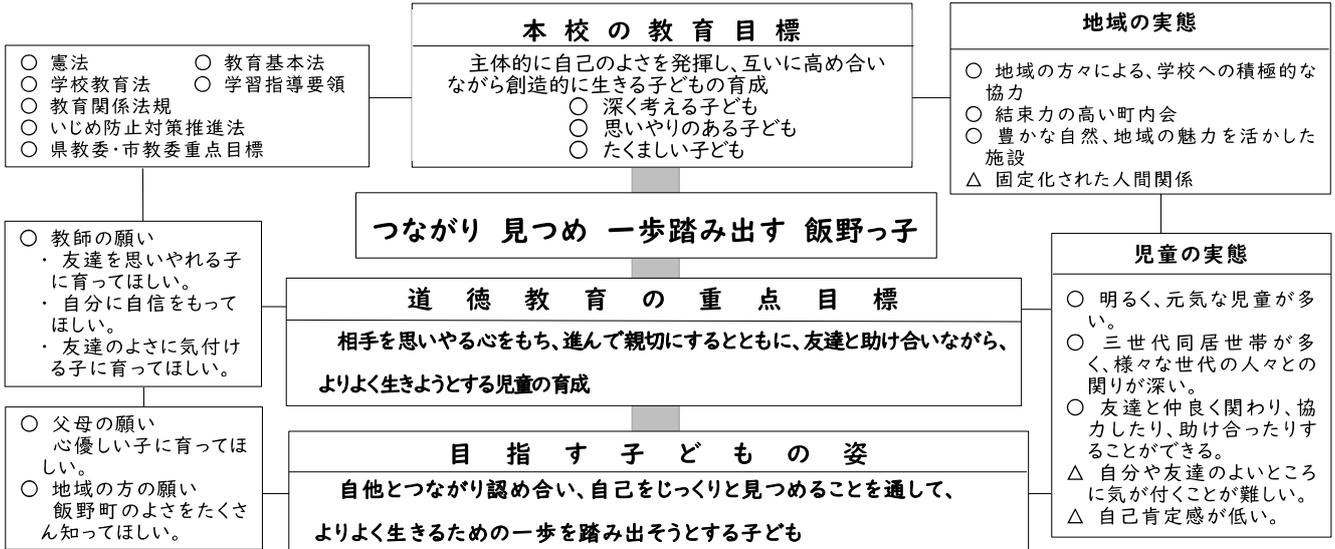
【教員の感想より】

「つながり、見つけ、一歩踏み出す飯野っ子」この合言葉の下重ねてきた実践がまさにつながり、広がりました。私たちから始める一歩を、子どもたちの一歩につなげていきたいです。

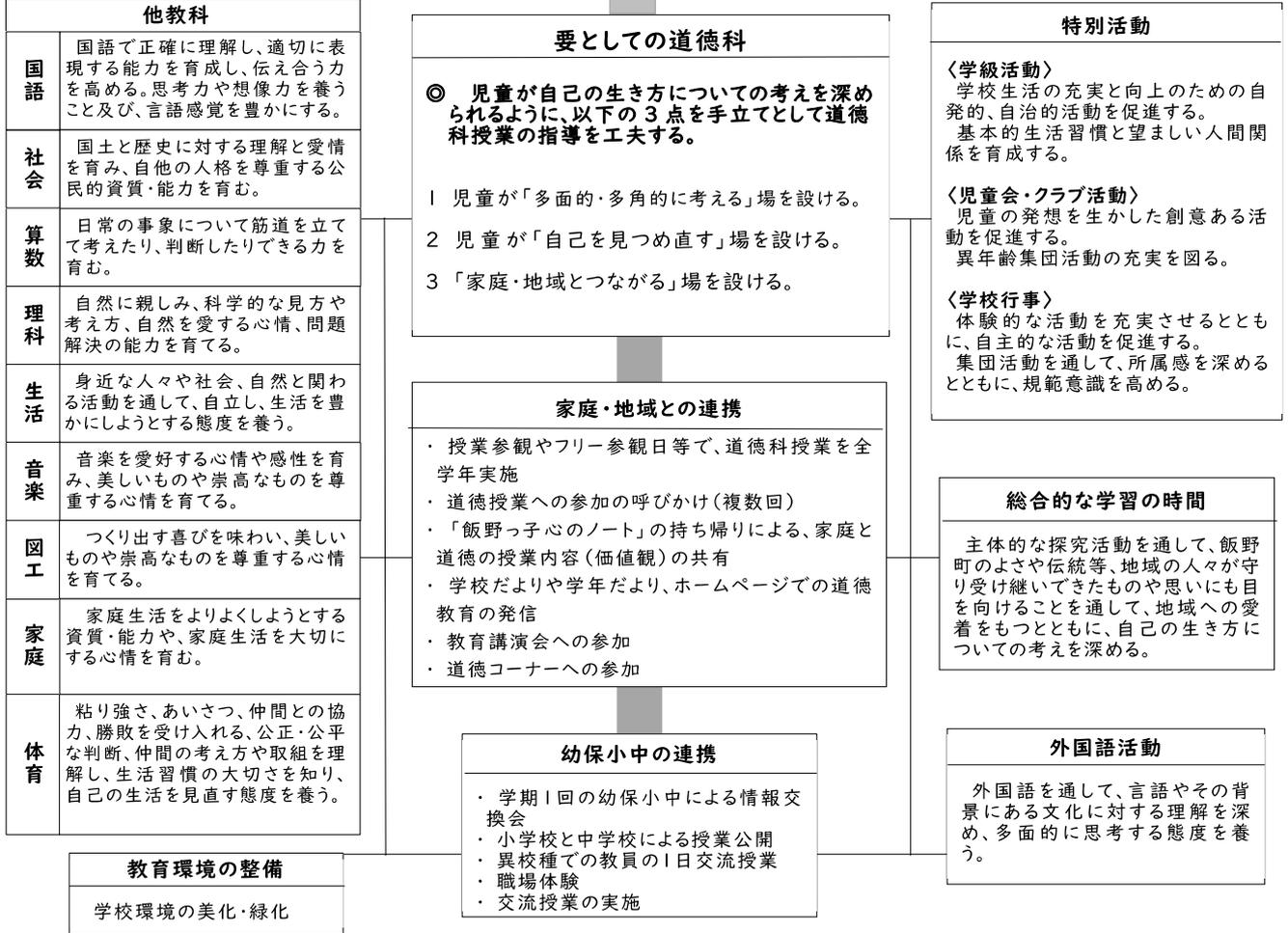
VI 子どもの成長を共に願って

11月10日(金)に本校で行われた、道徳教育地区別推進協議会では、秋田公立美術大学副学長の毛内嘉威氏より、ご講演をいただいた。その中で、最も印象に残っているのは、「学校には発信力があり、学校が地域や社会とのつながりをつくることで、道徳教育が変わり、子どもの価値観が変わる。」という言葉である。保護者参加型の授業を重ねる度に来校する保護者が増え、協力をお願いすると地域の方も快く引き受けて下さった。今後も、こうした多くの「つながり」を力にすることを基盤とした、家庭や地域と共に飯野っ子の道徳性をよりよく養う「飯野小学校ならではの道徳教育」を推進していきたい。

令和5年度道徳教育全体計画



| 学年別重点目標 | | |
|---|---|---|
| 低学年(1・2年) | 中学年(3・4年) | 高学年(5・6年) |
| <ul style="list-style-type: none"> ◎ 身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 ○ 友達と仲良くし、助け合う。 ○ 家族など、日頃世話になっている人々に感謝する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 相手のことを思いやり、進んで親切にする。 ○ 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。 ○ 家族など、支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする。 ○ 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていく。 ○ 日々の生活が、家族や過去から多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応える。 |



第5学年 主題名 親身な対応 [B(7) 親切, 思いやり]
教材名 「くずれ落ちた段ボール箱」(学研)

主題名の変更

主題名 誰に対しても [B(7) 親切, 思いやり]
教材名 「くずれ落ちた段ボール箱」(学研)

[8月18日の授業検討の話合いで使用したレシポート①]

**主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して
～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～**

【道徳科 小学校 第5学年 「誰に対しても親切に」 日親切, 思いやり
教材 「くずれ落ちた段ボール箱」(学研)】

① 本時のねらい
おはあさんお助けの時やお礼を言われた時の「わたし」の気持ちや考えを伝えることを通して、親しい人だけでなく自分自身に置き換えて考えることの大切さに気づき、誰に対しても思いやりの心をもって接していることとする心情を育てる。

③ 学習課題・見通し
家族や友達以外の知り合いの気持ちに気づかせる。知れぬ人にも親切にすることを紹介して下す。

④ 追求 多面的・多角的に考える
「わたし」の気持ちや「おはあさん」の気持ち、「おはあさん」の気持ち、「おはあさん」の気持ち、それぞれを多面的・多角的に考える。

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く
深い学びの目指すべき姿は、子ども一人一人の中にあります。

振り返り 自己を見つめる
今日の自分を「わたし」に置き換えて、知れぬ人にも親切にできたか振り返ることができたか。

教師の思い・願い
親切な行動は、とても大切な人間関係をよりよくなる上で大切なが、人間関係の深い人に対しては、親切な行動を通して、調解された心地よさや思いやりを伝えることが大切だ。調解された心地よさや思いやり、相手の立場に立って自分ごととして接し、対処することが相手のためになる。調解された心地よさや思いやり、相手の立場に立って自分ごととして接し、対処することが相手のためになる。調解された心地よさや思いやり、相手の立場に立って自分ごととして接し、対処することが相手のためになる。

[検討したところ]

中心発問
どの場面を取り上げて、中心発問にするか。
① 感謝を言われた場面
② 叱られても片づけ続けた場面

ねらいとする「親切, 思いやり」の価値からずれてしまふ。
⇒ 勇気という言葉が出ない発問をする必要がある。

相手から感謝されることに焦点を当てすぎない。
⇒ 困っている相手を手をどうにかして助けてほしいという気持ちを引き出した。

[授業検討の話合いを基に再度作成したレシポート②]

**主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して
～学びの自覚を促す確かな「振り返り」のススメ～**

【道徳科 小学校 第5学年 「誰に対しても親切に」 日親切, 思いやり
教材 「くずれ落ちた段ボール箱」(学研)】

① 本時のねらい
おはあさんお助けの時やお礼を言われた時の「わたし」の気持ちや考えを伝えることを通して、親しい人だけでなく自分自身に置き換えて考えることの大切さに気づき、誰に対しても思いやりの心をもって接していることとする心情を育てる。

③ 学習課題・見通し
親切な行動に関するアンケートを見て、どんなことがわかるかな。

④ 追求 多面的・多角的に考える
店員さんに叱られても、段ボールを片づけ続けた時、わたしは、どんなことを考えていたか。(心の数直線)

② ゴールにおける子どもの姿を明確に描く
深い学びの目指すべき姿は、子ども一人一人の中にあります。

振り返り 自己を見つめる
今日の自分を「わたし」に置き換えて、知れぬ人にも親切にできたか振り返ることができたか。

教師の思い・願い
親切な行動は、とても大切な人間関係をよりよくなる上で大切なが、人間関係の深い人に対しては、親切な行動を通して、調解された心地よさや思いやりを伝えることが大切だ。調解された心地よさや思いやり、相手の立場に立って自分ごととして接し、対処することが相手のためになる。調解された心地よさや思いやり、相手の立場に立って自分ごととして接し、対処することが相手のためになる。

学習テーマ

関わり方の深い身近な人には親切にできるが、知らない人には、親切にできていない実態があることを押さえる。

[変更点・工夫点]

中心発問

叱られても片づけ続けた場面を取り上げるとよいのではないか。
※ これまでは「みんなの心のものさし」を活用してきた。「心情メーター」を使う必要性はあるか。
⇒ 再検討したい。

ゆさぶり

意見が偏った際にも、多様な意見が出るよう、ゆさぶる発問を用意しておく。

問い返し

理由を問う、相手の立場を考え、相手の行動であることを意識させた。

地域との連携

第5学年及び第6学年の目標「誰に対しても」を受けて、人間関係の深さに限らず、児童が接するすべての人に思いやりの心やそれに伴った親切な行為を広げられるよう、地域の方に話をしていたいただくとした。

修正

令和5年11月10日（金）2校時
場所：1年教室

授業テーマ

おおかみがかくまの優しくなごころにふれ、感動する場面の役割演技で、児童一人一人がおおかみに共感しながら心の中をじっくりと考えることを通して、親切にされたり親切にしたりすることの心地よさを実感することができる授業

1 主題名 親切の心地よさ [B (7) 親切, 思いやり]

2 教材名 「はしの上のおおかみ」(わたしたちの道徳1・2年 文部科学省)

3 本時に寄せる思い

(1) 道徳的価値について

本主題は、低学年の内容項目B (7) 「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。」を、ねらいとしている。指導内容は、よりよい人間関係を築く上で求められる基本的姿勢として、相手に対する思いやりの心をもち親切にすることに关するものである。家族だけでなく身近にいる様々な人々との触れ合いの中で、相手のことを考えて、優しく接することができるようになることは、対人関係において欠かせないものである。そして、相手の喜びを自分のこととして受け入れられるようになり、親切な行為ができるようになることが重要である。

(2) 児童の実態について

本学級は、素直で優しい児童が多く、誰かが困っていたら自分から声をかけ、励ましたり手助けをしたりする姿が多く見られる。また、学級や学校のために思っていることを進んで行動するなど、様々な人々の関わりを通して、相手の気持ちに気付いたり、想像したりすることができるようになってきた。一方で、相手が困っていることに気付かなかつたり、自分の思いを優先したりする自分本位の考えで行動してしまう児童も見られる。

(3) 教材について

本教材は、大きなくまとの関わりで変化したおおかみの気持ちを考えることを通して、ねらいに迫るものである。一本橋で、自分よりも小さいうさぎやきつねを追い返していたおおかみだったが、大きなくまに優しくされたことから、相手を思いやり、親切にすることの心地よさに気付く内容である。おおかみが、大きなくまの優しい態度に接して、今までの自分の行動を振り返り、誰に対しても思いやりの心をもって接することのよさに気付いた点から、親切にすることの大切さについて考えることができる教材である。

(4) 指導について

指導にあたっては、まず、自分より小さい動物に対しては威張って、優越感を感じているおおかみの気持ちに気付かせる。そして、自分より大きなくまの優しくなごころにふれて感動する気持ちについて、保護者も参加する役割演技を通してじっくり考えさせることで、誰に対しても思いやりの心をもって接することについてより深く考えることができるようにしたい。終末には、これまでの自分、周りに人に優しくすることができていたかを振り返ることで、「親切にすること」について自分事として捉え、身近な人に温かい心で接し、親切にすることの心地よさについて、実感をもって考えることができるようにしたい。

4 本時の指導

(1) 本時のねらい

優しくなごころと出会った場面の役割演技を通して親切にされたときの心地よさに気付く、身近な人に対して思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる。

(2) 本時のねらいにせまるための手立て

【手立て1】多面的・多角的に考える

役割演技を通しておおかみの心の中について考える際、役割演技を見ている児童からも考えを引き出すことで、温かい心で親切にすることの大切さについての考えを広げたり、深めたりすることができるようになる。

【手立て2】自己を見つめ直す

これまでの自分が、周りの人に対して思いやり、思いやりの心をもって親切にすることができていたかを共通体験である幼小交流活動、学習発表会練習の写真を提示しながら具体的に想起することで、自分をじっくりと見つめることができるようにする。また、どうしてそうしようと思ったのか、できた理由やその時の気持ちについて引き出すことで、親切にすることの心地よさについて実感をもって考えることができるようにする。

【手立て3】家庭・地域とつながる

保護者も児童と同じように役割演技に加わり、児童がおおかみに共感しながらくまの優しくなごころにふれることで、親切、思いやりについての考えを深めることができるようにする。

幼稚園の先生や園児から、幼小交流活動の際の親切エピソードや感謝のメッセージをもらい、その動画を視聴することで、親切にすることの心地よさを感じたり、実践意欲を高めたりすることができるようになる。

5 事前と事後の活動

【事前】○ 幼小交流活動での年下の子との関わりについて振り返る。

【事後】○ 身近な人に優しくなごころでできていたか振り返った「心のノート」を保護者に見てもらい、励ましのコメントをもらう。

6 板書計画

7 本時の展開

| 学習活動 | 時間 | 指導上の留意点 | 手立て | 評価面 |
|---|----|---|--|------|
| <p>◎中心発問 ○主な発問・予想される児童の反応</p> <p>1 本時の学習テーマをつかむ。</p> <p>(1) アンケートの結果から、身近な人(親切)にしてみたら、どんなことを紹介する。</p> <p>○ この時、どんな気持ちでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 助けってもらって、嬉しかった。 ・ 優しくされて、心が温かくなった。 <p>(2) 本時の学習テーマをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>やさしくすると、どんなきもちになるのかな。</p> </div> <p>2 教材文を読んで考える。</p> <p>(1) 「はしの上のおおかみ」のお話を聞く。</p> <p>(2) おおかみの気持ちについて考え、話し合う。</p> <p>○ うさぎやきつねを追い返した時、おおかみはどんなことを思っていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 俺は大きくて強いから、先に渡る。 ・ 通せんぼうするのは、おもしろいな。 ・ 言いなりになって、おもしろいな。 ・ いい気持ちだ。 <p>◎ くまに抱き上げられ、反対側に行ってもらったおおかみは、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 渡らせてくれてありがとう。 ・ 俺は、うさぎやきつねに比べて通せんぼうしてしまったのに、くまは渡らせてくれてすごいな。 ・ 怖いくまだと思っただけで、優しいな。 ・ 追い返すのではなくて、抱えて渡らせてあげるといいのかな。 | 3 | <p>○ 親切にされた経験のアンケート結果を提示し、その時の気持ちを考えることで、ねらいとする道徳的価値に対する問題意識を高めることができるようにする。</p> <p>○ 登場人物と場面を紹介し、教材への関心を高める。</p> <p>○ パネルシアターで教材を提示し、より深く物語の世界に入り込めるようにする。</p> | <p>○ 指導上の留意点</p> <p>◇ 手立て</p> <p>◎ 全体の前にもグループで役割演技をすることで、児童一人一人がおおかみの気持ちを考えることができるようにする。くまの優しさへの感動や憧れ、これまでの自分への反省など、多様な考えを引き出すことができるようにする。</p> <p>◇ 役割演技では、くま役を教師と保護者が、おおかみ役を児童が演じることで、児童がおおかみに共感しながらおおかみの心の中をじっくりと考え、親切にすることのよさを実感できるようにする。【手立て3】</p> | ※評価面 |
| <p>○ 児童が考えたおおかみの気持ちを受けて、保護者にはくまの気持ちを話してもらうようにする。</p> <p>◇ 役割演技を見ている児童からも考えを引き出すことで、親切についての考えを広めたり、深めたりすることができるようにする。【手立て1】</p> <p>※ くまに抱き上げられ、反対側に行ってもらったおおかみの心の中について、自分の考えと友達、保護者の考えを比べて考えている。(発言)</p> <p>○ 親切にすると、相手だけでなく自分もよい気持ちになることに気付くことができるようにする。</p> <p>◇ 幼小交流活動や学習発表会練習の写真を提示し、共通体験を生かして振り返ることで、自分をじっくりと見つめられるようにする。また、できた理由やその時の気持ちについて引き出すことで、周りの人に親切にすることの心地よさについて実感をもって考えることができるようにする。【手立て2】</p> <p>※ 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすることができていたか、自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。(ワークシート・発言)</p> <p>◇ 幼稚園の先生や園児からの、児童の親切な行動についてのエピソードやそのことへの感謝のメッセージを収録した動画を視聴することで、親切にすることの心地よさを感じたり、実践意欲を高めたりすることができるようにする。【手立て3】</p> | 15 | <p>・ 何だかすごくいい気持ちだな。</p> <p>○ うさぎを抱き上げて反対側に行ろしてあげたおおかみは、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今度は、うさぎに優しくできたいな。 ・ 意地悪おおかみから優しいおおかみになれたぞ。 ・ くまみたいに自分も優しくできたいな。 ・ これからは、いつもこうしよう。 <p>3 自分を見つめ直す。</p> <p>(1) これまでの自分を振り返る。</p> <p>○ これまでの自分は周りの人にやさしくすることができていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年長さんとの交流会の時、並ぶ場所を教えた。 ・ 学習発表会の劇の練習で、台詞を忘れた友達に教えた。 <p>(2) 幼稚園の先生や園児からもらった、幼小交流活動についてのお礼のメッセージ動画を視聴する。</p> | | |

授業テーマ

主人公に対する家族の思いを考えたり、保護者の思いを実際に聞いたりすることを通して、家族の深い愛情や願いを感じるとともに、家族に支えられている自分に気づき、かけがえのない存在である家族について考えを深めることができる授業

1 主題名 かけがえのない家族 [C(15) 家族愛, 家族生活の充実]

2 教材名 「私の誕生日」(ふくしま道徳教育資料集 第II集)

3 本時に寄せる思い

(1) 道徳的価値について

本主題は、高学年の内容項目C(15)「父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。」をねらいとしている。また、指導の要点に、「家族の一員としての自覚をもって、家庭生活に貢献できる」児童を育成するよう示している。自分の成長を願い、愛情をもって育ててくれている家族に対して、尊敬や感謝の気持ちを持ち、家族の幸せのために自分には何ができるのかを考えることが求められる。家族が信頼関係と深い絆で結ばれていることに気づき、家族や家庭生活を大切にしようとする気持ちを深めることが重要である。

16(2) 児童の実態について

本学級の児童は、友達から親切にしてもらったことに対して「ありがとう」と素直に伝えたり、下級生に対して優しく思いやりで接したりすることができている。しかし、家族が自分に対して行ってくれていることに対しては、当たり前のよう感じている児童が多い。東日本大震災の年に生まれた自分たちが、困難な状況の中でいかに守られて育てられたのか話を聞いたとき成長を振り返ったりして、自分に対する家族の深い愛情や願いについて考える機会はない。また、質問紙調査の「自分にはよいところがある」に対して、肯定的ではない回答をしている児童も少なくない。3月に小学校卒業を控える今、家族の深い愛情に支えられながら成長している自分について改めて考えることは、たいへん意義深いことであると考える。

(3) 教材について

本教材では、誕生日が震災の日と同じ3月11日である主人公の春香が、自分の誕生日を祝ってもらっているのか悩むが、春香に対する両親の思いや両親の思いを受け止めた春香の思いを考えるところで、家族の深い愛情に気づくことができる。また、保護者の事前アンケートより、震災の時のエピソードや生まれたときの喜びなど、自分たちの誕生や生育に関わる保護者の思いに触れることを通して、家族の温かな愛情について実感をもって感じ取ることができると考える。

(4) 指導について

指導にあたっては、事前に保護者と児童からアンケートを取ることで、家族に対する互いの意

識を捉える。導入では、「家族はどんな存在か」という児童アンケートの結果から、肯定的な考え、否定的な考えの両面について提示することで、家族に対する問題意識を高めることができるようにする。展開場面における中心発問では、父と母がほほえむわけや春香が力強くうなずいたときの思いについて、保護者にも話合いに参加してもらい、互いの考えを交流することで、家族の願いや深い愛情に気づくことができるようにする。また、保護者のアンケートから、我が子の出産や子育てにおいて苦労したエピソードをいくつか紹介することで、自分たちに対する親の愛情を受け止めることができるようにする。自己を見つめる段階では、子ども一人ひとりのエピソードをもとに見つめることを通して考えを深めていきたい。終末では、親から子への手紙を読むことで、家族の深い思いを実感できるようにする。また、児童の家族に対する思いを聞いた感想を保護者に話してもらうことで、児童が自己の学びを感じ取ることができる機会にしたい。

4 本時の指導

(1) 本時のねらい

親の思いについて考えることを通して、家族が深い愛情をもって自分を大切に育てていることに気づき、かけがえのない家族を大切にしていこうとする心情を育てる。

(2) 本時のねらいにせまるための手立て

【手立て1】 多面的・多角的に考える

教材の中で主人公に対する家族の思いを考えたり、保護者から我が子への思いを実際に聞いたりすることで、家族の深い愛情や願いを感じることができるようにする。

【手立て2】 自己を見つめ直す

保護者アンケートや親から子への手紙を通して、震災時の家族の大変さや自分への無償の愛、そして家族に支えられていることに気づき、家族への思いをじっくりと見つめ、かけがえのない存在である家族について考えを深めることができるようにする。

【手立て3】 家庭・地域とつながる

保護者の授業参加により、児童と保護者が互いの考えを交流したり、子への思いを直接伝えてもらったりすることで、家族の深い思いを実感できるようにする。また、児童の家族に対する思いを聞いた感想を保護者に話してもらうことで、児童が自己の学びを感じ取ることができるようになる。

5 事前と事後の子どもの活動

[事前] ○ 事前アンケートで、自分にとっての家族の存在について振り返る。

[事後] ○ 「飯野っ子心のノート」を持ち帰り、自分の思いを家族に伝え、コメントをもらう。

6 板書計画

家族の思い

家族への自分の思い



三月十一日に
誕生日を祝って
いいのかな。

家族のみんなが私の
誕生日を喜んでくれて
いるんだな
・ 家族に大切にされて
いるんだな

家族にとって大切な
存在だよ。
・ 元気に育つてね。
・ 生まれてきてくれて
ありがとう。

自分にとって 家族とはどんな存在なのだろう。

7 本時の展開

| 学習活動 | 時間 | 指導上の留意点 | 手立て | 評価 |
|---|----|---|-------|--------------------------|
| ◎中心発問○主な発問・予想される児童の反応 1 本時の学習テーマを設定する。 (1) 自分のこととして、家族はどんな存在なのか、アンケート結果を基に考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 助けてくれる。 ・ 応援してくれる。 ・ いつもそばにいてくれる。 ・ うるさいときもある。 (2) 本時の学習テーマをつかませ。 自分にとって、家族とはどんな存在なのだろう。 | 5 | ○ 家族に対する肯定的な考え、否定的な考えの両面について提示することで、家族に対する問題意識を高めることができるようにする。 | ○ 手立て | ※ |
| 2 教材文を読んで考える。 (1) 「私の誕生日」を聞く。 | 20 | ○ あらすじや登場人物を紹介し、話の内容を捉えやすくする。また、震災から1年経った後も、未だに行方不明の方や避難している方がいる状況であることを押さえる。 | | |
| (2) 父母の思いやそれに対する春香の思いを考える。 ○ 誕生日に思わずつぶやいてしまった春香は、どんなことを考えたのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ たくさんの命が失われた3月 | | ○ 1年前の震災で未だつらい思いをしている人がたくさんいる中で、自分が誕生日を祝ってもらうことを迷う春香に共感できるようにする。 | | ○ 父と母の思いやそれに対する春香の思いを考える |

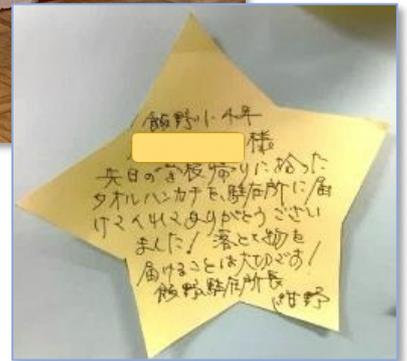
| | | | | |
|---|----|--|---|---|
| 11日に、誕生日を祝ってもらっていいのかな。 ◎ 父と母は、どんな思いで春香の方を見てほえんできたのだろうか。 ・ 元気に育つてね。 ・ 生まれてきてくれてありがとう。 ・ 家族にとって大切な存在だよ。 ○ 春香は力強くうなずいたとき、どんなことを考えていたのだろうか。 ・ 家族のみんなが私の誕生日を喜んでくれるのかな。 ・ 家族に大切にされているのだから。 3 保護者の我が子に対する思いを紹介する。 ○ おうちの人は、どのような思いでみんなのことを育ててきたのだろうか。 ・ 震災時、子どもたちを守ることで必死だった。 ・ 生まれてきてくれたことが、とても嬉しかった。 ・ 笑顔を見ると、大変なことも忘れられる。 ・ 元気に育ってほしい。 | 5 | ◇ 参加している保護者からエピソードを直接聞くことで、親の我が子への切実な思いについて考えられることができるようにする。【手立て3】 ○ 保護者に対する事前アンケートを基に、事前打合せを行い、話す内容について決めておくようにする。 | ◇ 保護者も交えたグループでの話し合いを設定し、友達や保護者と考えを交流することで、自分の考えと同じところや違うところを見つけ、考えを広げたり深めたりできるようにする。【手立て1】 ※ 父母の思いについて、自分の考えと友達の考え、他者の考えを比べて考えている。(発言) ○ 家族の思いを受け止めた春香に共感し、温かみについて感じることができるようになる。 | ◇ 自分が家族に大切にされていると感じたことについて、じっくりと考える時間を確保する。家族にとって自分も大切な存在であることについて考えられることができるようにする。【手立て2】 ※ 家族の思いを受け止め、自分が家族に大切にされていると感じたことについて、自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。(心のノート・発表) ◇ 参加した保護者に、感想を伝えてもらうことで、児童が自己の学びを振り返ることができるようになる。【手立て3】 |
| 4 自己を見つめ直す。 (1) 家族に対する思いを伝え合う。 ○ 自分とはどんな時に、家族に大切にされていると感じるのだろうか。 ・ おいしいご飯を作ってもらった時 ・ 看病してもらった時 ・ 自分の考えを尊重してもらった時 ・ だめなことをだめだと言ってもらえた時 (2) 保護者の感想を聞く。 ○ 子どもたちの家族への思いを聞いて、どのように感じましたか。 | 13 | ◇ 自分が家族に大切にされていると感じたことについて、じっくりと考える時間を確保する。家族にとって自分も大切な存在であることについて考えられることができるようにする。【手立て2】 ※ 家族の思いを受け止め、自分が家族に大切にされていると感じたことについて、自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。(心のノート・発表) | ◇ 参加した保護者に、感想を伝えてもらうことで、児童が自己の学びを振り返ることができるようになる。【手立て3】 | |
| 5 保護者からの手紙を読めば。 | 2 | | ◇ 事前に親から子への手紙を書いてもらい、子ども一人一人が家族の愛情を実感できるようにする。【手立て2】 | |

資料6

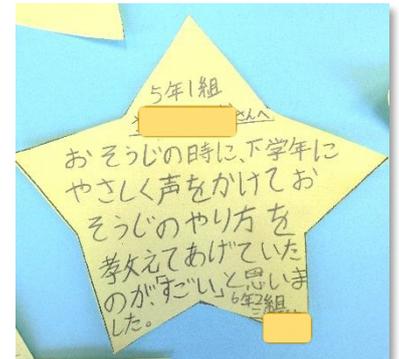
〈思いやりの星カードが輝く「全校道徳コーナー」〉



〈星カードが重なり合う「学級道徳コーナー」〉



飯野駐在所長さんから4年生へ



6年生から5年生へ

資料7

〈「道徳教育講演会」に向けた児童の取組〉



第1回道徳教育講演会

第2回道徳教育講演会



家庭・地域と育む道徳教育

「地域とのつながりの中で、よりよく生きようとする子どもの育成」

～家庭、地域と共につくる道徳教育を目指して～

つながる姿

友達とつながる



〈思いやりの姿を見つけ合う姿〉



〈友達と思いを伝え合う姿〉

家庭とつながる

いつも本当に助かっています。たくさんの手伝いに感謝しています。いつもありがとう。私の右うでだよ。

〈5年：振り返りカードへの保護者コメントより〉

子どもが生まれるということは、両親が大切に、望んで生まれてきたのです。けんかもするでしょうし、嫌なこともあるでしょう。でも、我が子を大切に思わない親はいないのです。…

〈6年：保護者アンケートより〉

相手を思って動き出す



〈上級生が下級生に寄り添う姿〉



〈児童会で募集・作成した「親切、思いやり」キャラクター〉

家庭とつながる



〈保護者に認められる姿〉



地域とつながる



〈地域の方の体験談を聞く姿〉

見つめる姿

仲間と共に考える



〈友達の思いを自分事として受け止める姿〉



つながり
見つめ
一歩踏み出す
飯野っ子

一歩踏み出す姿

勇気を力に一歩踏み出す



〈地域の方に作成したポスターを届ける姿〉



〈思いを受け止め自ら質問する姿〉

保護者と共に考える



〈保護者との役割演技で考えを深める姿〉



〈保護者の体験談に引き込まれる姿〉

《参考文献》

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科道徳編 / 文部科学省
- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説生活編 / 文部科学省
- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編 / 文部科学省
- 令和4年度道徳教育の礎（いしずえ） / 福島県教育委員会
- ふくしまの「授業スタンダード」 / 福島県教育委員会
- 令和5年度学校教育指導の重点 / 福島県教育委員会
- 令和5年度【県北版】学校教育指導の重点 幸せを紡ぐ県北の教育 / 県北教育事務所
- 教材研究のとびら / 県北教育事務所
- 令和5年度学校教育指導の重点 / 福島市教育委員会
- 日々の授業・保育の充実に向けて 令和4年度学校訪問の総括 / 福島市教育委員会
- こだわりの道徳授業レシピ～あなたはどんな授業がお好みですか？～ / 浅見 哲也 著
- 道徳科 授業構想グランドデザイン / 浅見 哲也 著
- 「生活・総合」の新しい授業づくり / 田村 学・齋藤 博伸 監修



〈地域の方のあいさつに迎えられて登校する姿〉

〈始業式の校長先生のあいさつより
～思いやりいっぱいの学校に～〉

〈昼休みにお気に入りの「おもいやりん」を描く姿〉